

地域資源を活かした滞在型観光の推進について

2023年度からは新たな観光立国推進基本計画（2023年3月31日閣議決定。以下「基本計画」という。）がスタートし、基本計画で掲げられた「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の3つのキーワードに留意の上、地方においても観光立国の実現に向けて取り組んでいる。

特に、コロナ禍を経て、密を避けられるアクティビティや新たな旅のスタイルへの関心拡大により、自然環境を生かしたアウトドアの旅行ニーズが上昇し、豊かな自然環境を有する中部圏地域にとって観光需要を拡大する好機を迎えている。

こうした中、スノーリゾートは、国内外から多くの旅行客を惹きつける冬季観光の重要なコンテンツであり、特にインバウンドは長期間滞在することから、スノーリゾート地域だけでなく、周遊観光などにより他地域へ波及効果も期待できる。

一方、スキー場関連事業者は国内スキー人口の減少や気候変動により、厳しい経営状況が続いている。スノーリゾートが世界から取り残されないよう、国際競争力をさらに高めていくためには、継続的かつこれまで以上の支援が必要である。

については、以下の事項について特段の措置を講じられるよう提言する。

1 スノーリゾート形成支援について

- (1) インバウンド獲得に意欲のあるポテンシャルの高いスノーリゾートの競争力を高めるため、2025年度に減額された「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」の予算を増額し、活用を希望する地域が十分に支援を受けられるよう予算措置すること。また、索道施設の整備等大規模な事業については、補助上限額を一層引き上げるとともに、複数年にわたり支援を受けられるようにするなど、より活用しやすい柔軟な制度とすること。

- (2) 近年多発しているバックカントリー事故を未然に防止するため、国のインバウンドプロモーションに合わせた山岳の安全対策に関する情報の発信、多言語看板や安全機器の設置など安全確保に向けた環境整備への財政的・技術的支援を強化すること。また、自治体・観光地域づくり法人（DMO）・事業者が取り組むガイド育成への支援を行うこと。
- (3) 安心・安全なスノーリゾートの形成に向けて、老朽化が進む索道施設の安全対策が急務な状況にあるため、索道施設の更新・修繕等への補助制度を創設すること。

2 インバウンド旅行客が大都市部に依然として集中していることから、地方への誘客を促すため、国を挙げた訪日プロモーションを展開すること。

3 社会変革に伴う長期滞在型観光や分散型旅行、ワーケーションなど、多様性のある新たな旅行スタイルを推し進めるため、2労働週(週5日勤務の場合10日間)以上の連続休暇を確保すること等を求めるILOの年次有給休暇に関する条約を批准するとともに、国主導で働き方改革を進め、企業に対しては休暇の分散やプラスワン休暇の働きかけを行うこと。